



付録の時代

今年中学1年生のみなさんから、大学入試が大きく変わることを以前お伝えしました。その流れからか先日開催された千葉学習塾協同組合主催の大学進学相談会には東大・千葉大・早稲田・明治をはじめとする史上最高数の大学が参加し、来場者数も最多となりました。各大学のブースで真剣に相談する高校生の姿が印象的でした。

さて来年からは中学校の教科書が変わります。学習指導要領の大幅な変更はまだなので、こちらはマイナーチェンジというところです。しかし、大学入試が変わるのであればそれより前に高校入試も変わってくるはず。その変化の兆しが来年度教科書にもいろいろありました。幕張にある「千葉県総合教育センター」でじっくり閲覧してみて、気づいたことを報告しましょう。

まずは「大きく、厚く、重くなった」というのが実感です。英語までワイド判になり、すべての教科で今までより確実に厚くなっています。それだけページ数が増えて例題や説明が詳しくなっているのですが、社会の教科書などは写真やグラフやイラストが多用されすぎていて、どこに焦点を絞って学習すればよいのか、かえって迷ってしまう気もしました。何はともあれ、これらの教科書を時間割通りに毎日揃えてカバンに入れて登校するには相当体力が必要です。「学校に置き教科書をするな」とは言えない状況になりそうです。だからこそ、いつかはデジタル教科書に置き換わるのかもしれませんが、今回の改訂はその過渡期としての位置づけかもしれませんが、付録の充実度に目がいきます。数学（啓林館版）には「MathNaviブック」という冊子がついていて自宅学習や前学年のまとめに便利です。英語（三省堂版）では別冊ではありませんが、3割以上のページを付録として文法の説明に使っています。これがなかなか丁寧でわかりやすいのです。小学校での英語の教科化を受けて、中学では文法もしっかり学ぼうということなら、良い傾向です。音楽の付録にギター&キーボードコード表があったのが個人的にうれしかったこと。来年からは教科書をすみずみまで利用できそうですよ！